



# Venture Pulse

## Q2 2022

Global analysis of venture funding  
日本語抄訳版

July 20, 2022

# 要旨

## グローバル

- ベンチャーキャピタルによる投資は1,202億ドル（取引数：8,420件）に減速
- 全取引に占めるアップラウンドの割合が過去最高を記録
- 過去最高のドライパウダー（投資可能な手元資金）が弾力的なバリュエーションを支える
- イグジットは2年ぶりの低水準を記録
- 世界の上位取引10件のうち、6件は米国で実施

## 南北アメリカ

- ベンチャーキャピタル支援企業による投資は662億ドル（取引数：3,778件）を記録
- レイターステージ・ベンチャーキャピタルの資金調達額の中央値が低下
- バリュエーションは依然として過去最高水準を維持
- 歴史的な1年を経て、カナダの取引は第2四半期に減少
- ブラジルでは超大型取引が急減
- 上位取引10件はすべて米国内で実施



## 米国

- ベンチャーキャピタルによる投資は623億ドル（取引数：3,374件）に減少
- 高いバリュエーションとともに、アップラウンドが続く
- 全取引に占めるエンジェルおよびシード投資の割合が増加
- ベンチャー企業による初めての資金調達は、今年も過去最高ペースを記録
- ベンチャーキャピタルによるファンドレイジングは記録的なペースを維持

## アジア

- ベンチャーキャピタルによる投資は245億ドル（取引数：2,206件）に減少
- 引き続き活発な企業活動を記録
- 上半期の資金調達は低調に推移
- インドにおけるベンチャーファイナンスが4四半期連続で65億ドルを突破
- 上位取引10件には、中国（5件）、インド（4件）、インドネシア（1件）、シンガポール（1件）の企業がランクイン

## ヨーロッパ

- ヨーロッパは好調で投資総額は273億ドル以上（取引数：2,220件）を記録
- 投資家の悲観的な見方からレイターステージ取引が好調を維持
- レイターステージ取引額は引き続き好調を維持
- 初回の資金調達活動は減速するも、引き続き活発な企業活動を記録
- 英国とドイツのベンチャーキャピタル取引は堅調に推移
- 上位取引10件に6カ国の企業がランクイン

# グローバルー2022年 第2四半期

ウクライナ危機の継続、高水準のインフレ率と金利の上昇を背景に、2022年第2四半期のベンチャーキャピタルによる投資は世界的に6四半期ぶりの低水準に落ち込みました。不透明感が払拭されないなか、2022年第3四半期におけるベンチャーキャピタルによる投資はやや低調に推移する可能性があります。

## 最大規模のメガディールは米国が中心

2022年第2四半期は、南北アメリカ、ヨーロッパ、アジアで取引件数、投資額ともに減少しました。米国におけるベンチャーキャピタルによる投資は、Epic Games（20億ドル）、SpaceX（17億ドル）、GoPuff（15億ドル）という3つの10億ドル超のディールにも助けられ、最も回復力を示しました。米国以外での大型ディールは、ドイツのTrade Republicによる11億5,000万ドル、インドを拠点とするDailyhuntによる8億500万ドル、アラブ首長国連邦のKitopiによる7億1,400万ドル、スイスを拠点とするClimeworksによる6億5,000万ドルの調達がありました。

## ドライパウダーは存在する一方で、ベンチャーキャピタルによる投資はより慎重に

米国、南北アメリカ、ヨーロッパを中心に国際的なベンチャーキャピタル市場には相応のドライパウダー（投資可能な手元資金）が存在する一方で、ベンチャーキャピタルによる投資は慎重になり、ポートフォリオ内の企業や収益性の高い企業、ウクライナ危機で注目される分野の企業などへの投資が中心になることが予想されます。

## ベンチャーキャピタルは嵐を乗り切るために手元資金の確保に注力するよう投資先企業に働きかける

世界中の多くの上場ハイテク企業と同様、これまで高成長を続けていた多くの非上場企業のバリュエーションが、6カ月前と比較して2022年第2四半期に低下しました。このため、いくつかのグローバルベンチャーキャピタルは投資先企業に対して、現在の不確実性を乗り切るために財布を引き締め、雇用計画をより厳選し、人員調整するように指示しています。多くのベンチャーキャピタルとスタートアップは、ダウンラウンドを避けて市場の混乱が改善するまで新たな資金調達を延期するために、手元資金の確保が不可欠であると考えられます。

## エネルギー価格の高騰により、代替エネルギーへの注目が高まる

世界の多くの地域でエネルギー価格が高騰し、低いエネルギー自給率に対する懸念が高まっていることから、2022年第2四半期は代替エネルギー、エネルギー貯蔵、モビリティへの投資家の関心が一段と高まりました。電気自動車とバッテリーは当四半期も引き続き主要な投資分野でしたが、水素関連技術などの分野もさらに注目されるようになりました。今後数四半期にわたり、ヨーロッパにおける小規模原子力発電所の開発など他のエネルギー源やソリューションへの関心が高まると予想されます。

# グローバルー2022年 第2四半期

## 公開市場が不調なか、IPOイグジットが世界的に失速

IPOは過去2年間好調に推移していましたが、米国、ヨーロッパ、アジアでIPOの窓が閉ざされたことにより多くのテクノロジー系上場企業のバリュエーションが大幅に低下し、また、IPOイグジットを検討していた企業の多くがその計画を延期しています。

2022年、世界的にSPAC（特別買収目的会社）の活動は落ち着いている一方で、多くのSPACが特に米国内でターゲット企業を探している状態が続いています。これらのSPACの多くは、今後12ヵ月以内にSPACに課せられた原則2年以内を買収を実現しなければならないという制約を迎えると思われます。このため、特に市況が改善すれば、今後数四半期にわたって新たな活動が行われる可能性があります。

## 2022年第3四半期に注目すべきトレンド

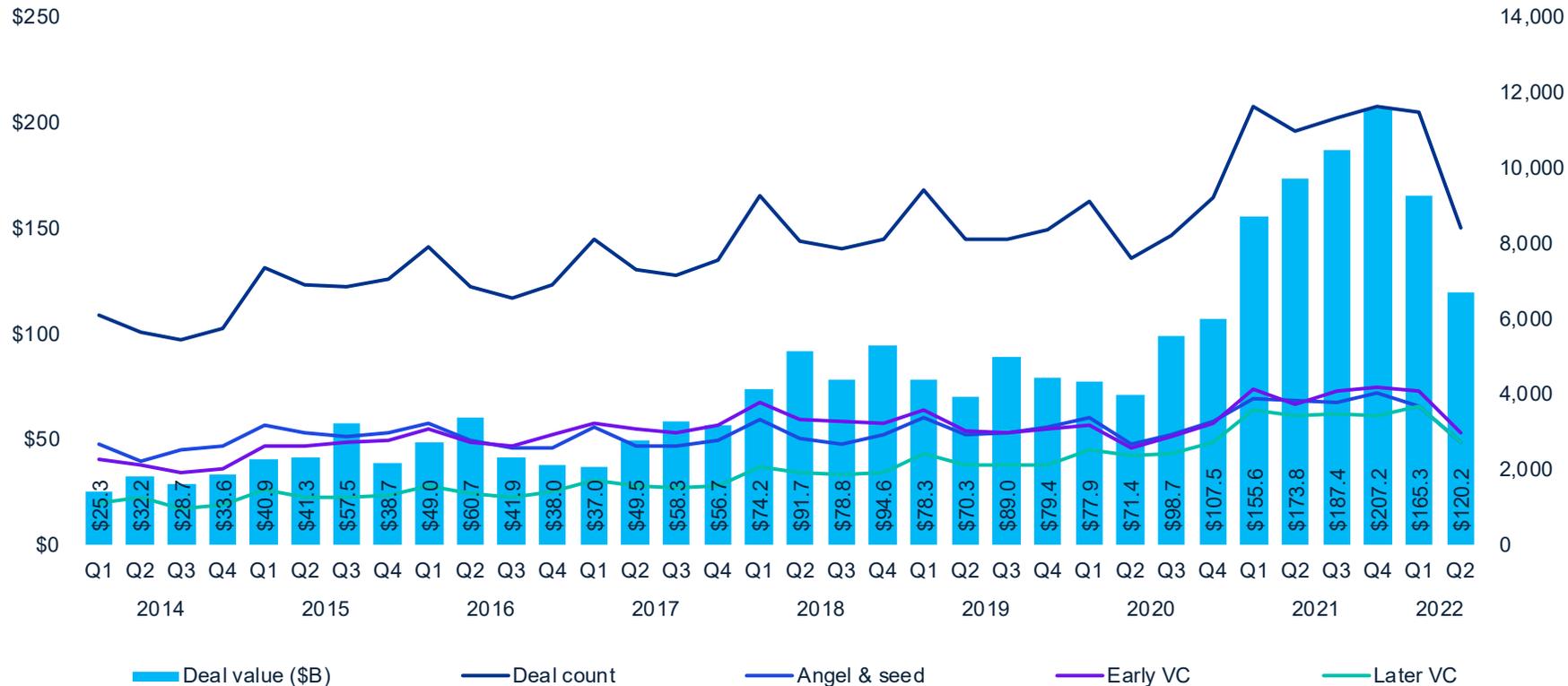
世界のベンチャーキャピタル市場に影響を与える地政学的・マクロ経済的な不確定要素が多いため、バリュエーションに対する下方圧力が継続し、投資額が減少する可能性があります。投資家が案件のデューデリジェンスを強化するため、多くの地域でベンチャーキャピタルによる取引の完了に、これまで以上に時間を要すると思われる。

フィンテックは、サプライチェーンやロジスティクス、サイバーセキュリティ、代替エネルギーとともに、世界の多くの地域で引き続き有力な投資分野として位置づけられると考えられます。インフレ率と金利の上昇を考慮すると、消費者向け企業はB2B向けソリューションへの投資を好むベンチャーキャピタルからの関心を一部失うと予想されます。

# グローバルー2022年 第2四半期

## Global venture financing

2014–Q2'22



Source: Venture Pulse, Q2'22. Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. Data provided by PitchBook, July 20, 2022.

“

好調な世界経済と消費者行動の変化に刺激され、この2年間のベンチャーキャピタルによる投資は世界中で爆発的な伸びを示しました。しかし、最近の地政学的・経済的な懸念から、投資家は警戒を強め、収益性の高い企業への投資に集中する傾向が強まっているようです。

”



**Jonathan Lavender**  
Global Head  
KPMG Private Enterprise  
KPMG International

# 米国－2022年 第2四半期

2022年第2四半期のベンチャーキャピタルによる資金調達額は減少したものの、当四半期の米国のベンチャーキャピタル市場は回復力を示し、投資額は2021年第1四半期以前のどの四半期よりも多くなりました。当四半期には、Epic Gamesによる20億ドルの資金調達のほか、SpaceXによる17億ドル、GoPuffによる15億ドルなど、10億ドル超の資金調達が3件実施されました。

## 現金消費を抑えることに注力するスタートアップ

インフレ率の急上昇と金利の上昇により、米国が景気後退に入るとの見方が強まるなか、米国のあらゆるスタートアップは自社の事業を評価し、現金消費を抑制する動きを見せています。2022年第2四半期には、企業は成長戦略の再検討や人員調整を開始し、多くの消費者向け企業に関しては、事業領域ごとの収益性の改善・強化の方法を検討し始めています。また、多くのベンチャーキャピタルは、投資先企業に対し新規資金調達の必要性を遅らせるため、あるいはIPO市場の再開を待つ間、経営を支えるために手元資金の確保に注力するように指示しました。

## サイバーセキュリティとサプライチェーンの企業が引き続き注目される

ウクライナ危機による不確実性が続きサイバー攻撃への懸念が高まるなか、米国におけるサイバーセキュリティに対するベンチャーキャピタルによる投資は2022年第2四半期において堅調に推移し、2022年第3四半期に向けても引き続き注目される状況にあります。また、企業のサプライチェーン管理を支援する企業も引き続きベンチャーキャピタルからの投資を集めています。

一方米国では、インフレ率と金利の上昇に加え、上場企業のバリュエーションが低下したこともあり、第2四半期に消費者向け企業に対するベンチャーキャピタルの関心が低下しました。しかし、このような傾向のなかでも卸売市場会社のFaireが同四半期に8億1,600万ドルの資金を調達するなど、一部の企業は成功をおさめています。

## 2022年第2四半期のIPO市場は依然として閉ざされたまま

米国におけるIPOのイグジットは2022年第2四半期も固く閉ざされたままであり、2021年を通じて見られた記録的なIPOの成果とは対照的です。市場の不確実性が高く、ロシア・ウクライナ紛争に終わりが見えないため、IPOのイグジットは2022年第3四半期まで停滞すると予想されます。一方で、M&A活動は、買い手側が評価額の下落を利用して買収を行おうとするため、成長する可能性が高いと考えられます。また、企業が業績に苦しんだり新たな資金調達に失敗したりすることで、プライベート・エクイティ・ファンドの活動が活発化する可能性があります。

# 米国－2022年 第2四半期

## 投資家の優先順位が変化するなか、ESG投資の焦点が絞られる

2022年第2四半期、米国では代替エネルギーや電気自動車、エネルギー貯蔵分野が引き続きベンチャーキャピタルの投資を誘引しました。これらの分野は2022年第3四半期も引き続きベンチャーキャピタルにとって魅力的であると思われませんが、その他のESG分野は、企業と投資家の双方が急速に上昇する投入コスト、サプライチェーンの課題、その他の差し迫った懸念を抱えるため、投資が減少する可能性があります。短期的には投資が減少するものの、ESGソリューション全体は長期的に重要な優先事項であり続けると考えられます。

## 2022年第3四半期に注目すべきトレンド

米国では夏季に多くのベンチャーキャピタルが休暇を取るため、投資活動の減少が予想されます。また、現在の地政学的な不確実性とマクロ経済環境も、ベンチャーキャピタルによる投資の水準にマイナスの影響を与える可能性があります。

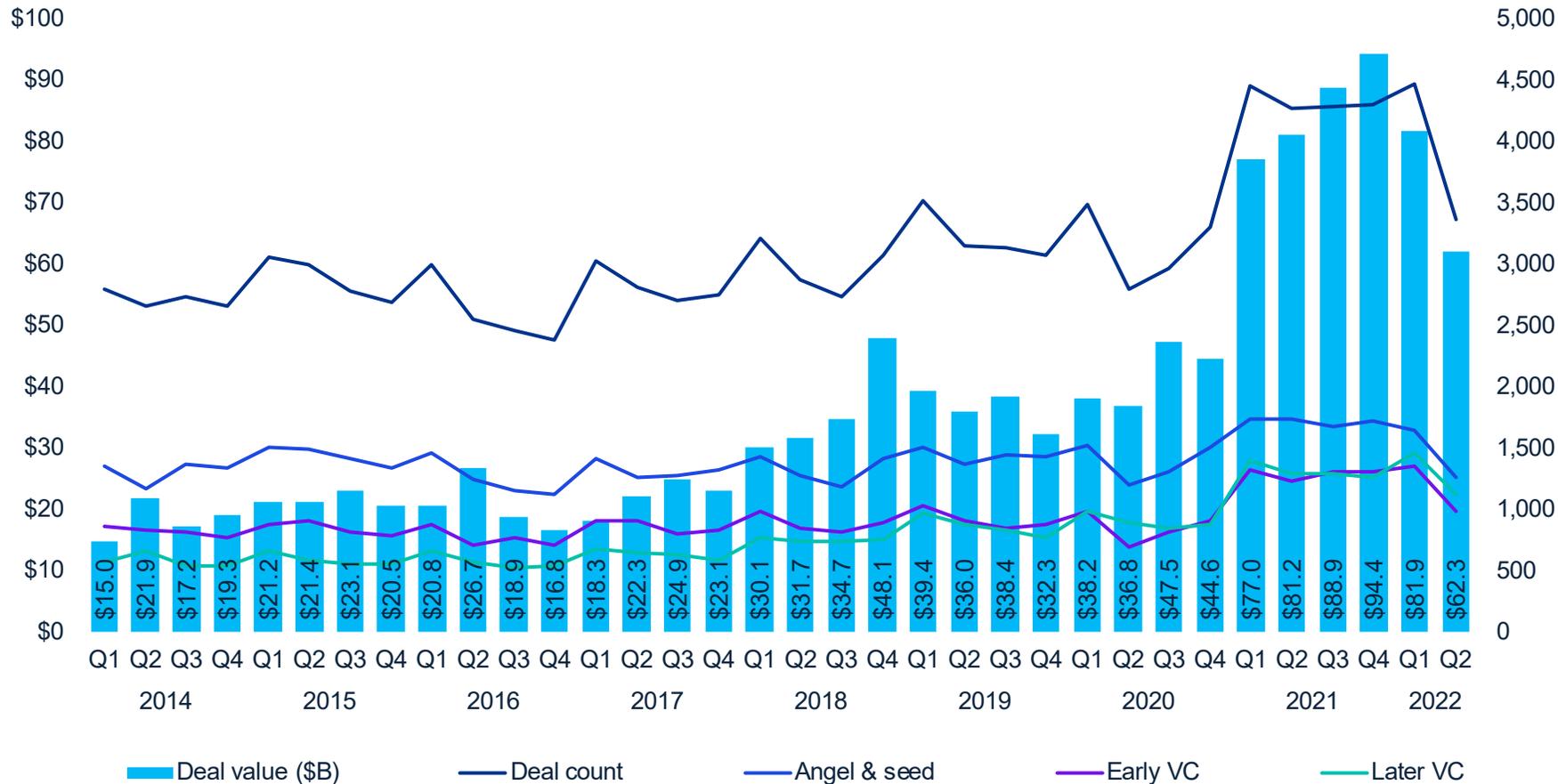
バリュエーションは2022年第3四半期も軟調に推移すると予想されます。代替エネルギー、サイバーセキュリティ、サプライチェーンマネジメントなどの業界の企業は投資家にとって引き続き魅力的であると思われる一方で、消費者向け企業への魅力は薄れる可能性が高いといえます。

IPO市場は2022年第3四半期も閉鎖的な状態が続くと思われませんが、投資家がバリュエーションの低下を利用して買収を行うことや、一部の業界では市場での地位向上のために企業の統合が見られることから、M&A活動が活発化する可能性があります。

# 米国 – 2022年 第2四半期

## Venture financing in the US

2014–Q2'22



Source: Venture Pulse, Q2'22, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. \*As of June 30, 2022. Data provided by PitchBook, July 20, 2022.

“

米国企業は引き締めを始めています。すべての企業が、この状況が続く限り身を縮めて乗り切る必要がありそうです。そしてこの状況はいつ終わるのかは重要な問題ですが、まだ明らかではありません。サイバーセキュリティとサプライチェーンの問題を解決するための取組みは、下落傾向から上昇傾向に転じる可能性が高いでしょう。”

”



**Conor Moore**

Head of KPMG Private Enterprise in the Americas,  
Global Leader, Emerging Giants, KPMG Private Enterprise, KPMG International & Partner, **KPMG in the US**

# 南北アメリカー2022年 第2四半期

2022年第2四半期の南北アメリカにおけるベンチャーキャピタルによる投資は、カナダやブラジルなど米国以外で減少しました。

## デューデリジェンスと収益性を重視するベンチャーキャピタル

2022年第1四半期後半、米国の景気後退がベンチャーキャピタル市場に影響を及ぼし始め、レイターステージのユニコーンが最初に評価額の引き下げ圧力を受けました。2022年第2四半期にはその影響が拡大し、シードラウンドやシリーズAラウンドを調達した企業の評価額も大きく下落しました。このため、米国および南北アメリカのベンチャーキャピタルは2020年から2021年にかけて大勢を占めていた取りこぼしを恐れての投資ではなく、潜在的な取引をより厳格に評価するようになってきています。2022年第3四半期に向けて、資金調達ラウンドの完了にはより多くの時間がかかると予想されます。アーリーステージの企業は、投資家を惹きつけるためにより強力なビジネスケースと収益モデルを必要とし、ベンチャーキャピタルは潜在的な案件についてより強固なデューデリジェンスを実施すると考えられます。

## コーポレートベンチャーキャピタルの投資額は南北アメリカ全体で減少

2022年第2四半期の南北アメリカにおけるコーポレートベンチャーキャピタルによる投資は、過去5四半期に見られた高水準から減少しました。この減少は、企業が現在の不確実性を考慮して中核事業に集中し、ベンチャーキャピタル部門への資金提供を縮小し、戦略的優先事項とは見なされないスタートアップへの投資を削減するなどの複合的な要因を反映していると考えられます。2022年第3四半期では、企業はコアビジネスの補完を目的とした戦略的なベンチャーキャピタルによる投資に重点を置くと予想されます。

## 変わり始めた暗号資産の潮流

南北アメリカでは、2022年第2四半期に行われた評価額と資金調達の調整に対して、暗号資産とブロックチェーンの領域は、当初ある程度の免疫力を示していましたが、暗号資産の関連企業は現在、暗号資産の大規模な売却に対処しようとしています。2022年第2四半期に米国を拠点とするBlockFiの評価額は10億ドルに下落し、現在は必要な資金を得るためにダウンラウンドで調達中です。暗号資産分野の急激な逼迫により、2022年第3四半期に向けて暗号資産関連企業の統合が進み、優れた企業のみがトップに立ちその他の企業は取り残されることになりそうです。

## カナダでベンチャーキャピタルによる取引件数が激減

カナダにおけるベンチャーキャピタルによる取引件数と投資総額は、引き続き取引活動のペースが鈍化していることから2022年第2四半期に減少しました。フィンテック、医療、バイオテクノロジーがカナダにおけるベンチャーキャピタルによる投資の最も顕著な分野であることには変わりはなく、デジタルバンクのNeoは当四半期に1億4,500万ドルを調達し、フィンテック・ユニコーンの地位を獲得しました。カナダのベンチャーキャピタルは投資先をより厳しく見極めるようになり、既存の投資先企業に対して、大雑把な成長戦略から収支均衡や収益性達成を目指してより焦点を明確にした戦略へとシフトするよう助言しています。

# 南北アメリカー2022年 第2四半期

## ブラジル経済は予想以上に好調、ベンチャーキャピタルによる投資は依然減少傾向

ブラジルの経済は、特にGDP成長率に関して2022年第2四半期は予想以上に好調でした。しかし、ベンチャーキャピタルによる投資は、地政学的な不確実性やその他の世界的なマクロ経済要因の結果、当四半期は著しく減少しました。複雑な市場環境にもかかわらずブラジルでは、サイバーセキュリティとバイオメトリクスのUnicoやB2BコミュニケーションとソーシャルコマースのTake Blipによる1億ドルの資金調達など、いくつかの大規模な資金調達ラウンドが行われました。

2022年秋に連邦選挙が予定されており、ブラジルのベンチャーキャピタルによる投資は下半期も低調に推移する可能性があります。ブラジルのベンチャーキャピタルファンドは大量のドライパウダーを保有していますが、投資家は2022年第3四半期に向けてプライベート・エクイティ・ファンドのように行動し、評価、キャッシュ生成、チームサイズ、営業費用全体についてより厳しい基準を設けると予想されます。

## 2022年第3四半期に注目すべきトレンド

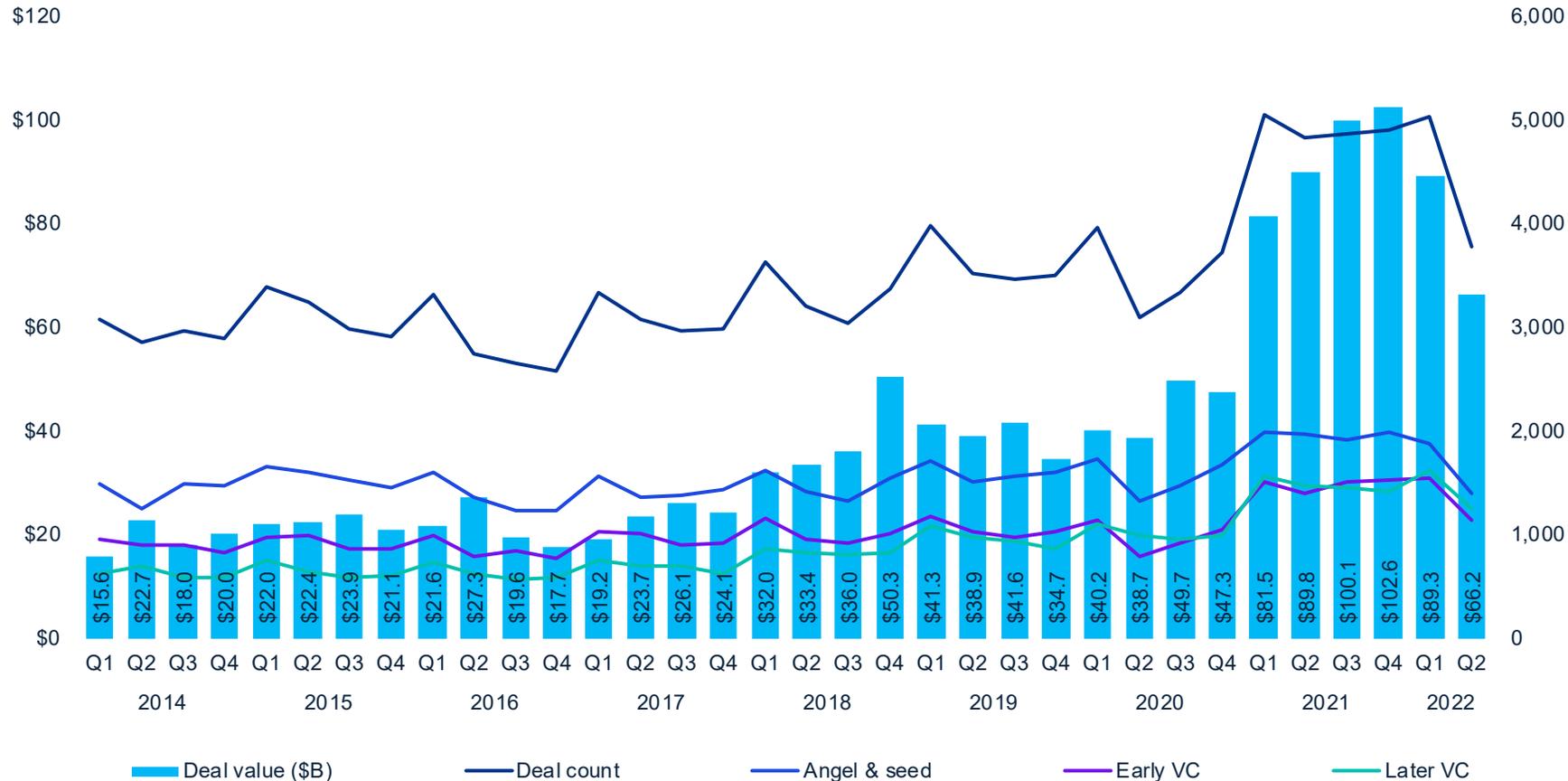
現在の不確実性に終わりが見えないなか、2022年第3四半期に向けて南北アメリカ全体のベンチャーキャピタルによる投資は低調に推移する可能性があります。暗号資産やブロックチェーン、eコマース、その他の消費者向け産業などのセクターでは、優良企業が競合との差別化を図る一方、事業計画を見直さなかった企業は資金不足に陥るため、統合に直面する可能性があります。

多くのスタートアップは、レイオフ、プロジェクトの延期や終了、研究開発費の凍結、その他の経費削減など、資金を節約して新たな資金調達をできるだけ遅らせるために、まず他の手段を尽くすと思われるが、ダウンラウンドがより広く活用される可能性があります。

# 南北アメリカー2022年 第2四半期

## Venture financing in the Americas

2014–Q2'22



Source: Venture Pulse, Q2'22, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. \*As of June 30, 2022. Data provided by PitchBook, July 20, 2022.

“

不況の到来が予想されるなか、この先どうなるのかは興味深い状況です。不況をチャンスと捉える企業もあれば、他社との差別化を図るチャンスと捉える企業もあるでしょう。他の企業が従業員を解雇し成長率を下げるなかで、トレンドとは逆の方向に進む企業が何社あるでしょうか。この機会を捉えて妥当な給与で適切な人材を確保し、市場シェアを獲得しようとする企業がどれだけあるでしょうか。次の1、2四半期は非常に興味深いものになるかもしれません。

”



**Sunil Mistry**

Partner, KPMG Private Enterprise,  
Technology, Media &  
Telecommunications (TMT)

KPMG in Canada

#Q2VC

# ヨーロッパ-2022年 第2四半期

2022年第2四半期は、ウクライナ危機に伴う地政学的不安の増大、特定原材料やバリューチェーンへの依存意識の高まり、インフレ懸念の深まりなどを背景に、ヨーロッパのベンチャーキャピタルによる投資額および取引件数が減少しました。また、2022年第2四半期にはヨーロッパ中央銀行が2022年7月1日に11年ぶりの利上げを実施し、その後9月に追加利上げを行うことを発表しました。

## 化石燃料への依存が、ESGと代替エネルギーへの関心を呼び起こす

近年、ヨーロッパのベンチャーキャピタルによるESGやサステナビリティ分野への関心が高まるなか、2022年第2四半期はウクライナ危機を契機に化石燃料への依存度に関する議論が高まり、関心がさらに高まったと言えます。特に、再生可能エネルギーベースや分散型エネルギーベースのビジネスモデル、そしてモビリティやクリーンテックといった分野を含む、より広範なESGへの関心が高まっています。2022年第2四半期にヨーロッパで行われた最大のディールの一つは、スイスに本拠地を置き、大気中の二酸化炭素を直接回収する技術を持つ Climeworksによる6億5,000万ドルの資金調達でした。

## インフレが高止まりしているため、消費者向けビジネスモデルへの関心が低下

インフレ率と金利の上昇、その他のマクロ経済要因を考慮すると、ヨーロッパでは消費者主導型企業に対するベンチャーキャピタルの関心は、特にラストワンマイル配送、マーケットプレイス、eコマースといった分野で低下すると予想されます。各分野の有力スタートアップは今後も投資家から注目を集めるとは思われますが、その他のスタートアップは困難に直面する可能性があります。このため、スタートアップ間の統合が進む可能性があり、さらに、経営難に陥った企業に注目するプライベート・エクイティ・ファンドの関心も高まると予想されます。

## 英国におけるベンチャーキャピタルによる投資は引き続き堅調に推移

英国におけるベンチャーキャピタルによる投資は、2022年第2四半期で6四半期連続で急増しました。フィンテックは今期も投資対象として引き続き注目されており、SumUpによる6億2,600万ドルやGoCardlessによる3億1,200万ドルの資金調達はその筆頭と言えます。ヘルステックとバイオテクノロジーも、他のセクターと比較してインフレに強いこともあり、引き続き注目されました。エドテックも2022年第2四半期に注目を集めました。オンライン実習プラットフォームのMultiverseが2億2,000万ドルを調達し、ユニコーンの地位を獲得したことがその主な要因です。

英国の伝統的なベンチャーキャピタルがより慎重な投資アプローチを取り始めたことで、非伝統的なベンチャーキャピタルの活動がニッチな投資分野で活発化する可能性があります。英国では2022年第3四半期に向けて、前四半期に機関投資家の資金で賄われたシリーズAやシリーズBの案件に、個人富裕層の投資家が資金を提供するようになるかもしれません。

# ヨーロッパ-2022年 第2四半期

## ドイツのVCディール件数は減少、ベンチャーキャピタルによる投資額は堅調に推移

2022年第2四半期のドイツにおけるベンチャーキャピタルによる投資は、取引件数は大幅に減少したものの比較的堅調に推移しました。ドイツを拠点とするベンチャーキャピタルは引き続き多額の資金を調達しており、当四半期にはTrade Republic（11億5,000万ドル）、Personio（4億7,000万ドル）、Onefootball（3億1,600万ドル）、Taxfix（2億2,000万ドル）、1Komma5（2億1,900万ドル）などが挙げられます。

最近の不確実性を受けて、ドイツの企業は原材料や部品がどこで生産されているかに着目し、バリューチェーンやサプライチェーンを再考し始めています。投資家やその他のステークホルダーが、サプライチェーンの持続可能性を向上させ、コアバリューの異なる国への依存を減らすよう企業に圧力をかけているため、この関心は次の四半期にさらに高まると予想されます。このため、バリューチェーンのニッチな分野の改善に焦点を当てたスタートアップへの関心が高まる可能性があります。

## 北欧のベンチャーキャピタルによる投資は堅調に推移、取引件数は低迷

北欧では、世界的なベンチャーキャピタルによる投資と取引件数の減少の影響を受け始めています。多くの企業にとって、十分なランウェイの確保、資本効率、健全なユニットエコノミクス、バリュエーションオファーの低下とともに収益化への道筋が最優先事項となっているようです。規模拡大のために国際的な投資家から資金を調達しようとしている企業の中には、既存投資家からの転換社債や政府系ファイナンスのようなブリッジ金融手段に目を向け、

市場や企業の業績が改善すればより良い条件や評価倍率を達成して生き残ろうとするところもあります。

セクター別では、B2Bソフトウェアが消費者向け小売業と比較して回復力を示し、フィンランドに本拠地を置くAivenが当四半期に2億1,000万ドルを調達しました。

また、ディープテック分野も引き続き、ベンチャーキャピタルの間で注目されています。

## 2022年第3四半期に注目すべきトレンド

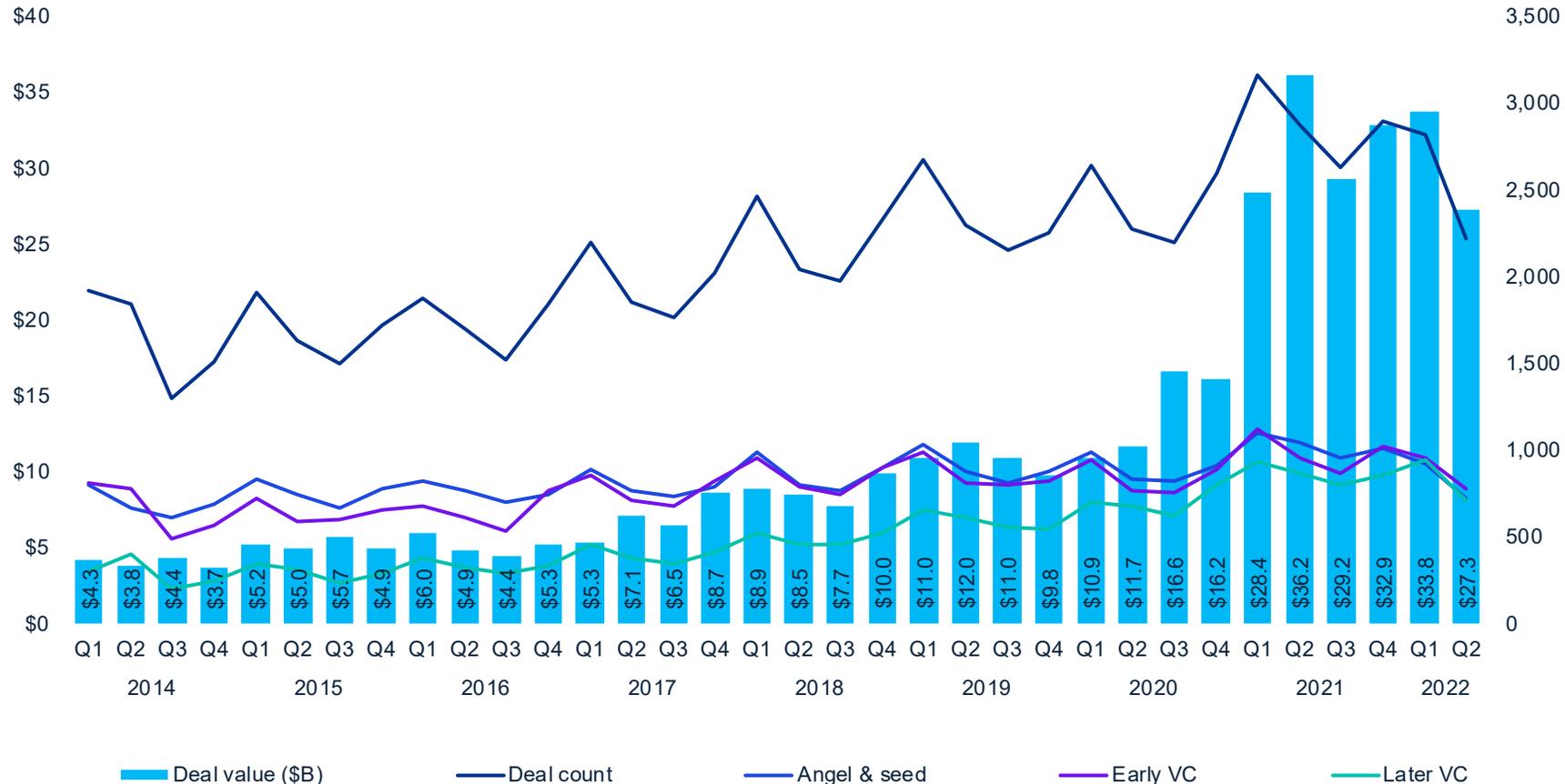
ヨーロッパのベンチャーキャピタルによる投資は、2022年第3四半期も慎重な姿勢を崩さず、資金獲得を目指す企業に対する監視の目を強めていくと予想されます。市場には潤沢な資金が存在するため、質の高いテクノロジー企業が引き続き資金を集めると考えられます。しかし、これまでは楽観的な見方をしていた投資家から資金を調達してきた企業は、今後数四半期はより困難な状況に直面し、資金を調達するためにはより強力なビジネスケースと収益への道筋が必要になると考えられます。また、バリュエーションに対する圧力はダウンラウンドの可能性を高め、ベンチャーキャピタルがダウンサイドプロテクションの活用に関心を向ける可能性があります。

ヨーロッパのIPO市場は、特に供給コストが高騰している消費者向け企業や工業系企業では冷え込んだ状態が続くと予想されます。バリュエーションも2022年第3四半期に向け下降圧力がかかるでしょう。

# ヨーロッパ—2022年 第2四半期

## Venture financing in Europe

2014–2022



Source: Venture Pulse, Q2'22, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. \*As of June 30, 2022. Data provided by PitchBook, July 20, 2022.

“

市場全体が冷え込んでおり、英国はもとより、ヨーロッパ全域でIPOが行われていません。エクイティ、デットを問わず、エクイティ・キャピタル・マーケット (ECM) の動きもありません。消費者向けテクノロジーセクターは最も顕著な減速を見せ、産業セクターもコストと諸経費の増加が顕在化しつつあります。とは言え、インフレを上回る成長を遂げている企業もあり、またベンチャーキャピタルの資金も市場には豊富で、M&Aも活発に行われています。



**Warren Middleton**

Lead Partner for Emerging Giants,  
Center of Excellence in the UK  
KPMG in the UK

# アジアー2022年 第2四半期

アジアにおけるベンチャーキャピタルによる投資は、ディールボリュームが急減したことにより2022年第2四半期は8四半期ぶりの低水準に落ち込みました。地政学的な不確実性、地域全体で静かなIPO市場、10億ドル以上のメガディールの欠如がこの減少の要因だと考えられます。

## アジアにおけるエネルギー分野へのベンチャーキャピタルからの注目度は依然として高い

エネルギーは、アジア全域で最も注目されている投資分野の1つであり、アーリーステージの企業でも多額の資金調達に成功しています。例えば、2022年第2四半期には、中国のGokin Solarが2億5,100万ドルのシリーズAラウンドを調達しています。最近の四半期に見られたアーリーステージ企業の大規模な資金調達は、電気自動車、代替エネルギー、エネルギー貯蔵に焦点を当てた企業を含むエネルギーのスタートアップが他のセクターのスタートアップと比較して資本集約的であるということを反映していると思われる。

香港金融管理局は中華人民共和国香港特別行政区（SAR）および海外の銀行と協力し、グリーン・ファイナンスの取組みを推進するための方法を引き続き検討しています。

## 資金繰りの悪化が予想されるため、インドのスタートアップは資金確保に注力している

インドにおけるベンチャーキャピタルによる投資は、世界的な地政学的不安定要因とインフレ率の上昇を一因として、2022年第2四半期に減少しました。ベンチャーキャピタルの投資先企業は、今後数四半期に資金調達が困難になることと、ベンチャーキャピタルが投資先企業に黒字化路線の強化や現金支出の抑制を求めることを見越して、手元資金の確保に重点を移しました。

当四半期、インドではeコマースやソーシャルコマース、ゲームに加え、フィンテックが引き

続き最も注目される投資分野となりました。2022年第2四半期はアグリテックも数多くのディールを魅了した一方で、これらの取引の大半はアーリーステージの中でも初期段階で行われており、今後この分野の発展に伴い取引規模が拡大することが予想されます。

## 市場が成熟し続けるなか、日本へのベンチャーキャピタル投資は引き続き堅調を維持

日本のベンチャーキャピタル市場が進化と成熟を続けるなか、日本は2022年第2四半期に堅実なベンチャーキャピタル資金を集めました。空間伝送型ワイヤレス電力伝送（WPT）を手掛けるSpace Power Technologies（2億ドル）、診断会社AIM（AIメディカルサービス）（7,000万ドル）、ピッキングアシストロボティクス会社のラピュタロボティクス（5,000万ドル）、B2BフィンテックサービスプロバイダーのUPSIDER（4,200万ドル）など、さまざまなセクターの企業が当四半期に資金を調達しています。セクター別では、ペイメントやアセットマネジメント、ブロックチェーン、Web3.0などのフィンテック分野が、引き続きベンチャーキャピタル投資家からの高い関心を集めています。

日本政府は、2022年第2四半期に経済成長戦略の草案を発表しました。これには、イノベーションを促進し、スタートアップを支援し、ベンチャーキャピタル投資を促進するための多くの政策が盛り込まれています。

# アジアー2022年 第2四半期

## 中国の国内ベンチャーキャピタルファンドがスタートアップを支援する役割を強化

中国では、急成長するスタートアップの支援に国内ベンチャーキャピタルファンドが果たす役割が拡大し、2022年第2四半期も米ドル建てベンチャーキャピタルファンドから人民元建てファンドへの資金流入が続いています。米国の投資家が中国でのベンチャーキャピタルによる投資に慎重になっているため、特にユニコーンやユニコーンに近い企業で国内ファンドへのシフトが顕著に表われています。

また、中国の一部のスタートアップが必要な資金調達に苦労しているため、2022年第2四半期は取引完了までの時間が長くなっています。これは、アーリーステージの投資家の心理から、中国のスタートアップが低いバリュエーションでの資金調達が困難であるため、バリュエーションに下方圧力がかかっている分野の企業で特に顕著でした。

## 2022年第3四半期に注目すべきトレンド

アジア全体では、2022年第3四半期に向けてM&A活動が活発化する可能性があります。投資家と企業が、評価環境の低下と資金調達環境の逼迫を利用して、外部的成長の機会や市場シェア拡大の機会を見出そうとするためです。

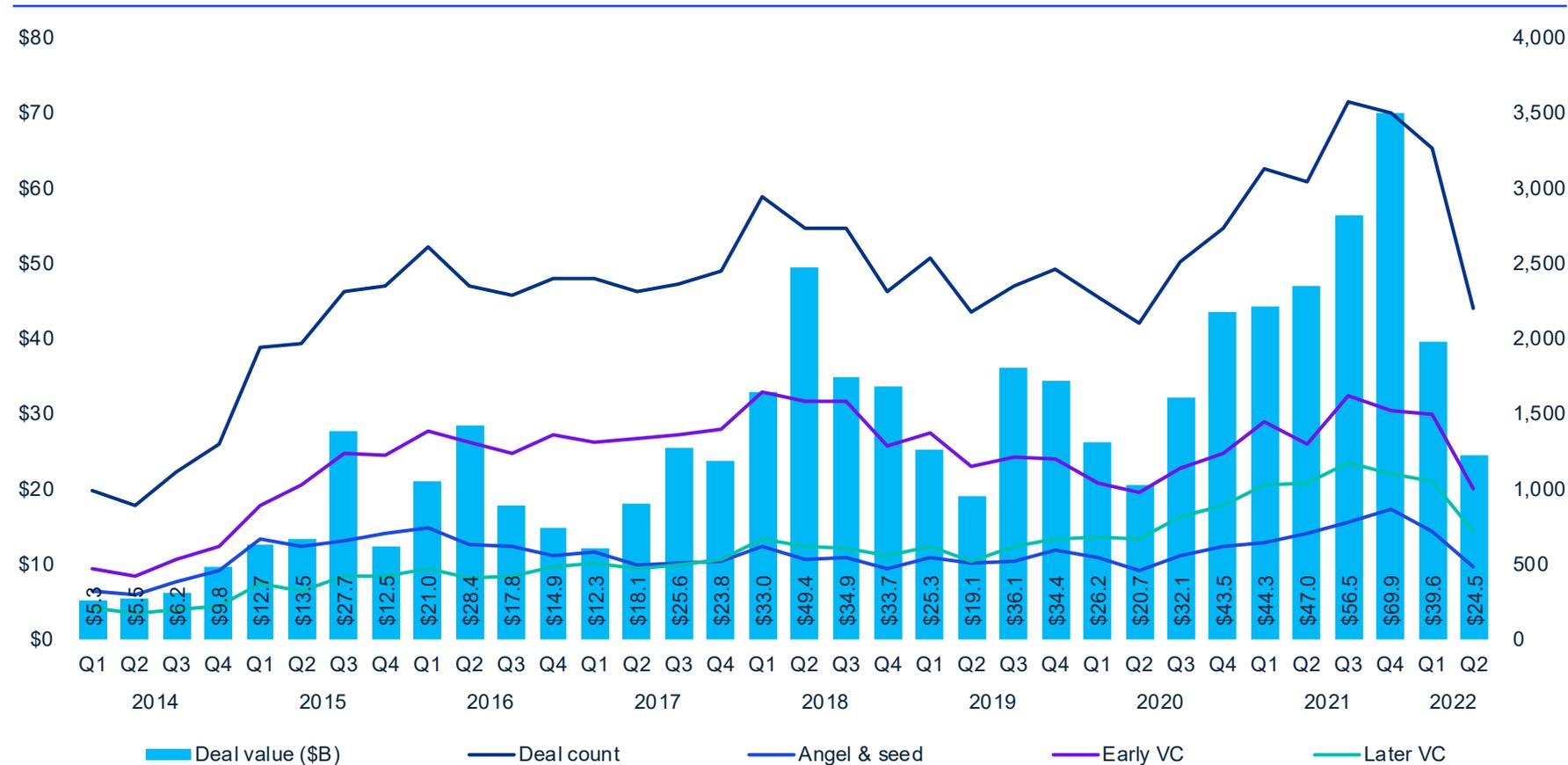
中国におけるベンチャーキャピタルによる投資は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックが続いていること、地政学的・マクロ経済的環境が不透明なことから、2022年第3四半期は低調に推移すると予想され、資金調達活動も低水準にとどまると考えられます。中国では、エネルギーと半導体のセクターが引き続き投資家にとって魅力的であると思われる。香港（SAR）では、ヘルステック、インシュアテック、グリーンテックなど幅広い分野で、ベンチャーキャピタルによる投資が継続されると予想されます。

インドへのベンチャーキャピタルによる投資は、世界的な資金供給量の減少などにより、今後1～2四半期は控えめになる可能性があります。マクロ経済環境や市場の人口動態が比較的良好であることから、中長期的にはベンチャーキャピタルにとって魅力的な国であり続けると予想されます。

# アジアー2022年 第2四半期

## Venture financing in Asia

2014–Q2'22



Source: Venture Pulse, Q2'22, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. \*As of June 30, 2022. Data provided by PitchBook, July 20, 2022.

“

中国におけるベンチャーキャピタルの投資は、上半期にかなり減速しています。COVID-19に関連した操業停止に加え、海外投資家の動きの鈍化と昨年の規制変更に関連した警戒がベンチャーキャピタルのエコシステムに打撃を与えているためです。しかし、ロボット、半導体、ESGなど、中央政府の最新の5カ年計画の中核をなす重要分野への投資は、引き続き堅調に推移しています。”



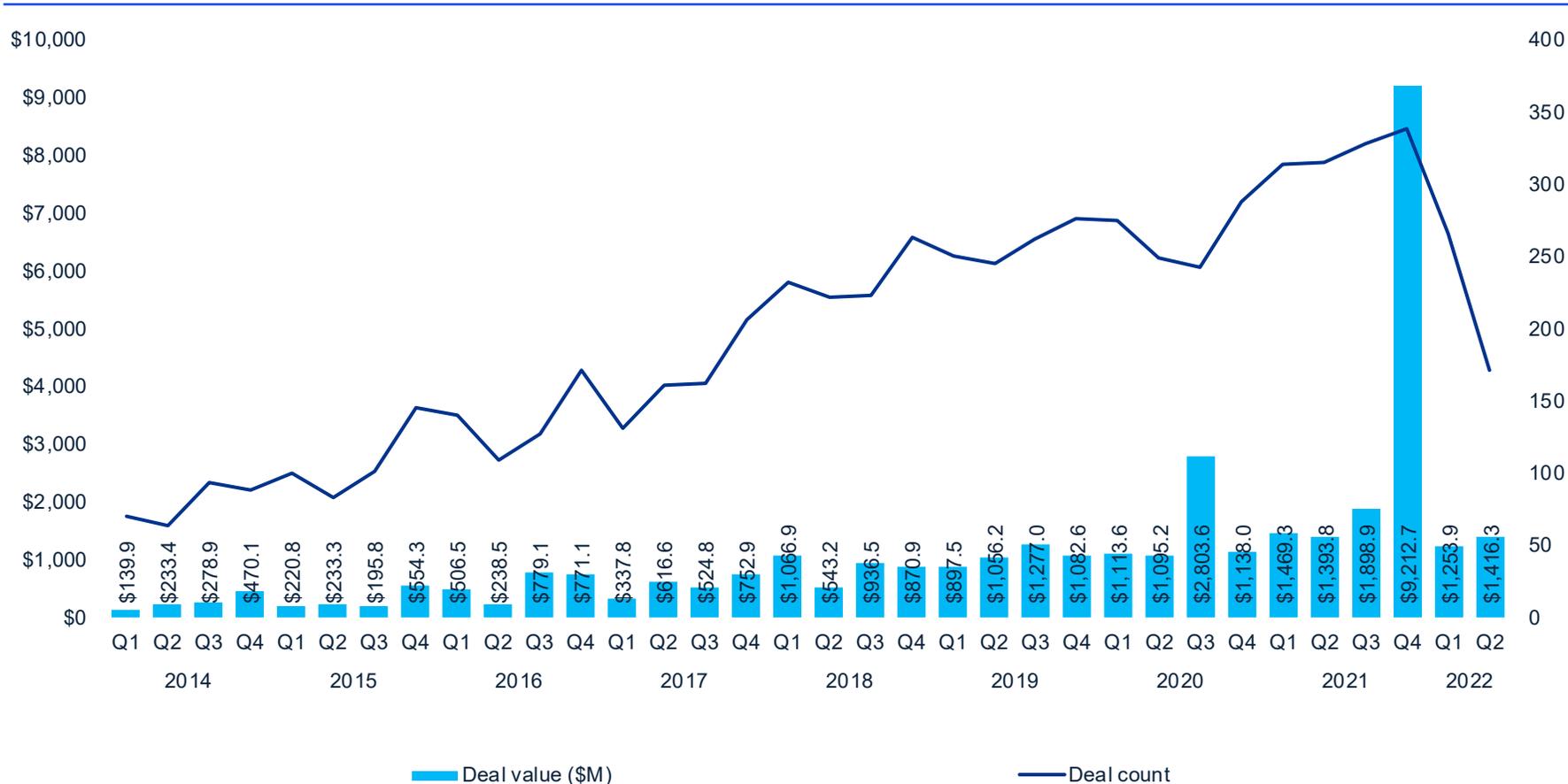
**Egidio Zarrella**

Partner, Clients and Innovation  
KPMG China

# アジアー2022年 第2四半期

## Venture financing in Japan

2014-Q2'22



Source: Venture Pulse, Q2'22, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. \*As of June 30, 2022. Data provided by PitchBook, July 20, 2022.

“

2022年第2四半期に公開市場でのバリュエーションに対する低下圧力の影響が、日本のベンチャーキャピタル資金調達活動に浸透し始めました。B2B-SaaSなどの特定のセクターの企業は、シリーズBまでのラウンドでは調達に成功していましたが、この四半期、シリーズC以降の調達ラウンドでは苦戦を強いられました。グローバル思考を持つ企業や脱炭素化などのグローバルな問題にフォーカスしている企業は、レイターステージでの資金調達においてより良い結果を出しています。”



阿部 博

常務執行理事  
スタートアップ統轄パートナー  
有限責任 あずさ監査法人



**KPMG**ジャパン セクター統轄室

Sector-Japan@jp.kpmg.com

プライベートエンタープライズセクター

[home.kpmg/jp/private\\_enterprise](https://home.kpmg/jp/private_enterprise)

英語オリジナル

[Venture Pulse Q2 2022 : Global analysis of venture funding](#)

[home.kpmg/jp/socialmedia](https://home.kpmg/jp/socialmedia)



本冊子は、KPMGインターナショナルが2022年7月に発行した「Venture Pulse Q2 2022: Global analysis of venture funding」を、KPMGインターナショナルの許可を得て抄訳したものです。翻訳と英語原文間に齟齬がある場合は、当該英語原文が優先するものとします。

ここに記載されている情報はあくまで一般的なものであり、特定の個人や組織が置かれている状況に対応するものではありません。私たちは、的確な情報をタイムリーに提供しよう努めておりますが、情報を受け取られた時点及びそれ以降においての正確さは保証の限りではありません。何らかの行動を取られる場合は、ここにある情報のみを根拠とせず、プロフェッショナルが特定の状況を綿密に調査した上で提案する適切なアドバイスをもとにご判断ください。

© 2022 Copyright owned by one or more of the KPMG International entities. KPMG International2entities provide no services to clients. All rights reserved.

KPMGは、グローバル組織、またはKPMG International Limited (「KPMGインターナショナル」)の1つ以上のメンバーファームを指し、それぞれが別個の法人です。KPMG International Limitedは英国の保証有限責任会社 (private English company limited by guarantee) です。KPMG International Limitedおよびその関連事業体は、クライアントに対していかなるサービスも提供していません。KPMGの組織体制の詳細については、<https://home.kpmg/xx/en/home/misc/governance.html>をご覧ください。

© 2022 KPMG AZSA LLC, a limited liability audit corporation incorporated under the Japanese Certified Public Accountants Law and a member firm of the KPMG global organization of independent member firms affiliated with KPMG International Limited, a private English company limited by guarantee. All rights reserved. 22-

The KPMG name and logo are trademarks used under license by the independent member firms of the KPMG global organization.